

令和6年3月21日
北海道開発局

「北海道マリンビジョンコンテスト2023」結果発表！

～日本一の鮭のまち、ウトロ地域が最優良賞に選定～

令和5年に全道各地域で実施された取組のうち、エントリーのあった17件の取組を対象に「北海道マリンビジョンコンテスト2023」の審査が行われ、表彰地域が選定されました。表彰については、本年7月1日に開催予定の「北海道マリンビジョン促進期成会総会」において、執り行う予定です。

北海道マリンビジョン促進期成会及び北海道開発局では、地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた活動を通じ、魅力ある漁業地域づくりに寄与することを目的として、「北海道マリンビジョンコンテスト」（北海道マリンビジョン促進期成会・北海道開発局共催）を実施しています。

（別紙1-1～1-2参照）

記

令和5年度の各賞に選定された地域は、以下のとおりです。

○最優良賞

- ・「ウトロ地域マリンビジョン協議会」～鮭、日本一のまちPR活動～

○優良賞

- ・「室蘭地域マリンビジョン協議会」～市外イベントへの出店～
- ・「根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会」
～地域観光資源を生かしたエコツーリズムの推進～
- ・「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」
～昆布漁業体験インターンシップ制度の確立に向けたモニタリング事業～

○奨励賞

- ・「砂原地域マリンビジョン協議会」～地元小中学校への出前授業・漁業体験～

※受賞理由及び応募のあった取組については、別紙2-1～5、別紙3参照

※北海道マリンビジョンの概要は、以下URLをご参照下さい。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/suisan/ud49g700000ny1b.html>

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

農業水産部 水産課 課長補佐 中村 雅博（内線 5593）

農業水産部 水産課 漁港輸出専門官 永沼 尚久（内線 5598）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



北海道マリンビジョンコンテスト

「北海道マリンビジョン促進期成会（※）」では、平成 20 年度から各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた取組を表彰する「北海道マリンビジョンコンテスト」を開催しています。（令和 5 年度からは北海道開発局と共催）

表彰された取組を広く公表することで、その更なる推進と他地域への活動の波及を図り、活力ある北海道水産業・漁業地域の実現を目指しています。

「優良賞」は、地域マリンビジョンの実現に向け、地域マリンビジョンに計画された取組を着実に実行し、他地域への波及や手本となり、特に持続性が期待される取組を実施した地域を表彰するものです。

「最優良賞」は、優良賞のうち、最も優良と評価されるものを表彰するものです。

「奨励賞」は、地域マリンビジョンに計画された取組のうち、発展途上なものであり、支援を受けることでその発展性や持続性が期待される取組を実施した地域を表彰するものです。

表彰地区は、学識経験者等からなる北海道マリンビジョンコンテスト審査委員会にて、先駆性や取組体制、情報発信等の観点から審査が行われ、選定されています。

（※）北海道マリンビジョン促進期成会

地域マリンビジョンの円滑な実施をもって、北海道マリンビジョンの実現を図っていくため、各地域間の情報交換、交流及び広報活動を行い、魅力ある漁業地域づくりに寄与することを目的に平成 8 年度に設立。

会員は、地域マリンビジョンを策定した市町村及び漁業協同組合で、会員数は現在 30 市町・32 漁業協同組合。会長は片岡春雄寿都町長、事務局は寿都町が務めている。

令和5年度 北海道マリンビジョンコンテスト審査委員会

委員名簿

	氏 名	所属・役職
委員長	長野 章	公立はこだて未来大学 名誉教授
委 員	片石 温美	中央大学 研究開発機構 教授（客員）
委 員	濱田 武士	北海学園大学 開発研究所 所長
委 員	日置 秀彦	北海道開発局農業水産部 部長

* 敬称略。委員は五十音順

最優良賞

「ウトロ地域マリンビジョン協議会」

～ 鮭、日本一のまちPR活動 ～

【協議会の概要】

「ウトロ地域マリンビジョン協議会」は、町の二大産業である漁業と観光業の多様な連携による相乗効果と、ウトロ漁港を中心とする基盤施設等を有効活用した、地域・社会経済の活性化を目指しており、漁業生産の増大、漁業の観光資源化、漁港施設の観光利活用の3つの柱で取組を進めています。

【取組概要と選定理由】

ウトロ地域では、知床の知名度や水揚げ見学が可能な漁港、鮭の遡上観察が出来る河川等を生かして、ウトロ漁港と鮭の観光資源化、さらに鮭の地域ブランド化を目指し「鮭、日本一のまち」のPRに継続的に取り組んでいます。

令和5年度は、これまでの取組を発展させ、「鮭を知り、鮭から学ぶ」をテーマに10月1日から10日までの期間を「知床鮭ウィーク」と銘打って、期間中の毎日、地元の大型ホテルへ鮭を無償提供し、展示や料理に活用されたほか、「鮭のトークショー」を1日に3回開催し、10日間で延べ600人以上が参加するなど大きな反響がありました。

また、「ウトロ鮭テラス」（人工地盤2F）を活用した鮭の水揚げ見学は好評を博しており、観光ガイド事業者の体験メニューに取り込まれているほか、鮭を使ったおにぎりキッチンカーの試験出店を行うなど、「鮭、日本一のまち」の更なる知名度向上に努めています。

このような地元観光産業と連携した取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となる取組であり、また、取組のステップアップが図られていることから、最優良賞に選定されました。



鮭のトークショー



ウトロ鮭テラスでのキッチンカー試験出店

優良賞

「室蘭地域マリンビジョン協議会」

～ 市外イベントへの出店 ～

【協議会の概要】

「室蘭地域マリンビジョン協議会」は、規模や役割の異なる4地区（追直漁港、室蘭港崎守地区・絵鞆地区、イタンキ漁港）が補完・連携しあい、水産業と人々の交流を通じた漁港と地域の一体的な活性化と地域水産業の振興を図ることを目指しています。

【取組概要と選定理由】

室蘭地域では、追直漁港の人工島などで水揚げされた室蘭産ホタテを活用して、「ほたてチリバーガー」を開発し、市内で開催される各種イベントで販売を行うことで市民への認知度は向上しましたが、市外での認知度は低く、市外向けの情報発信、室蘭産水産物の知名度の向上が課題となっていました。

そこで室蘭地域では、令和5年に静岡県で開催される「Sea 級グルメ全国大会 in 沼津」に参加し、ほたてチリバーガーを販売することを決定。本イベントでは、室蘭市や室蘭漁協の職員に加えて、地元高校生のボランティアらが協力して調理、販売を行い、2日間で2,287個を売り上げるなど大きな反響がありました。

この取組は、地域で協力して開発した商品を通じて、地元産水産物の消費促進や知名度の向上を図った事例で、他地域の模範となる取組であると評価され、優良賞に選定されました。



協議会メンバーによる販売風景



ほたてチリバーガー販売時の行列

優良賞

「根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会」

～ 地域観光資源を生かしたエコツーリズムの推進 ～

【協議会の概要】

「根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会」は、漁港周辺の優れた自然環境・景観を活用しつつ、エコツーリズムの推進による国内外からの来訪者との交流やつくり育てる漁業の推進による地域振興を目指しています。

【取組概要と選定理由】

落石地域では、落石岬などの優れた景観、自然、水産物などの環境コンテンツの集積に恵まれながらも、孤立した立地などの問題から、漁業以外の関連産業が形成されていない状況にありました。

根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会では、こうした課題の解決に向けて、優れた観光資源を活用したエコツーリズムの推進を図り、多くの来訪者との交流や、所得機会の向上に向けた取組を進めており、休漁期に漁業者の自営船をクルーズ船として活用し、漁業者自らがガイドとなって運行する「落石ネイチャークルーズ」を行っています。

近年は、外国人の参加者も年々増加しているため、翻訳機を用意するなどして外国人観光客の受入れについても力を入れています。

また、歩きながら自然を楽しむ「落石フットパス」では、ガイド不足が課題となっていることから、外部から講師をお招きして地元のガイドを養成するなど、地域の人材育成にも努めています。

これらの取組は、地域ならではの自然を生かした漁村の魅力発信の好事例として、また、地域の人材育成にも努めていることが高く評価され、優良賞に選定されました。



落石ネイチャークルーズ



落石フットパス

優良賞

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」

～昆布漁業体験インターンシップ制度の確立に向けたモニタリング事業～

【協議会の概要】

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」は、歯舞ブランドの確立に向けて、多様な取組を展開し、水産業はもとより地域経済や地域の活性化を目指しています。

特に歯舞水産物のブランド化を中心テーマに位置付け、ブランド化への取組を通じた漁業振興による地域の活性化に向けて地域関係者が一体となって取り組み、活気のある漁村地域づくりを目指しています。

【取組概要と選定理由】

歯舞地域の太宗漁業である昆布漁においては、近年、漁業従事者の高齢化や担い手不足が顕著となり、労力の確保が課題となっていました。

根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会では、こうした課題に対応するため、根室市が相互協力協定を結んでいる東海大学静岡キャンパスと連携し、同大学の「就労型インターンシップ」と歯舞漁協の「観光・滞在型の渚泊体験事業」を融合させた新たなインターンシップ制度を試験的に導入しました。

この取組は、一定期間、学生が漁家へ滞在するもので、漁家は学生のために食事と寝床を提供し、学生が昆布漁の作業全般を担うことで、昆布漁家の軽労化が図られ、学生側は地域住民と触れあう機会が増えることで、地域性や風土を深く学ぶことができ、漁業の魅力ややりがいを体験することができます。

この取組は、歯舞地域と大学の双方にメリットが得られるものとなっているほか、地域の魅力の発信や交流人口の拡大、若年層への水産業の理解向上、担い手不足への対応も図られる事業内容であり、これらの取組が高く評価され、優良賞に選定されました。



学生による昆布干し作業



学生による昆布裁断作業

奨励賞

「砂原地域マリンビジョン協議会」

～ 地元小中学生への出前授業・漁業体験 ～

【協議会の概要】

「砂原地域マリンビジョン協議会」は、砂原産水産物のブランド化、次世代への漁業の継承、高次水産加工の展開、水産・農産物組合せ製品の開発、ブルー・グリーンツーリズムの創出を掲げ、漁業と砂原地域に関心を抱いてもらえるまちづくりを目指しています。

【取組概要と選定理由】

砂原地域は、ホタテガイ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としており、漁業と水産加工業が盛んな地域ですが、一方で、海が身近な環境にありながらも、近年は子供たちの魚離れが進んでいました。

そこで、砂原地域マリンビジョン協議会では、魚とのふれあいや魚食文化の普及を目的として、地元のさわら小学校や砂原中学校を対象に、ホタテガイの耳釣り・刺網漁業の網外し体験などを続けるとともに、森町がホタテを全国の学校へ提供した縁により、東京都の小学校からオンラインでの食育授業の依頼があるなど、地域外への発展も見えてきました。

この取組は、若手の漁業者が講師として参画しており、児童生徒へ向けた効果だけでなく、若手漁業者のやりがいにも繋がっています。また、令和5年からの新たな取組として、地域おこし協力隊と連携して食育授業等の様子を町の公式 youtube へアップロードするなど、活動の PR も行われています。

若手漁業者の熱意と積極的な PR により、今後、更なる取組の発展が期待されるため、奨励賞に選定されました。



若手漁業者による体験授業



オンライン食育授業

取組一覧

地域名	取組名
遠別	地域の若者たちがつくる農林水商の枠組みを越えた相互連携
苫前	苫前漁港港内蓄養実証事業
寿都	朱太川流域環境共生圏の形成
函館(臼尻)	南茅部地域内外での定期的な鮮魚販売
砂原	地元小中学生への出前授業・漁業体験
室蘭	市外イベントへの出店
三石	水産学習・食育の推進
様似	マナマコ人工種苗生産・放流事業
福島	地元漁業の次世代への継承
厚岸	衛生管理体制の強化
根室(落石地区)	地域観光資源を生かしたエコツーリズムの推進
根室(歯舞地区)	昆布漁業体験インターンシップ制度の確立に向けたモニタリング事業
羅臼	人手確保対策
大津	防災減災対策の検討・実施
ウトロ	鮭、日本一のまちPR活動
サロマ湖	サロマ湖の環境保全
雄武	つくり育てる漁業の推進